

問題



1. 一息入れる (ひといきいれる)
2. 気を入れる (きをいれる)
3. 心を入れ替える (こころをいれかえる)
4. 殻に籠もる (からこもる)
5. 根を詰める (こんづめる)



1. 花も恥じらう (はなもはぢらう)
2. 鯖を読む (さばを読む)
3. 眉に唾をつける (まゆにつばをつける)
4. 身から出た錆 (みからでたさび)
5. 美人薄命 (びじんはくめい)

この漫画のタイトルは1〜5のうちのどれだと思いますか？



とんかつ屋の鯨



鯨を数える

何泣いているんですか？お父さん



「お父さん、鯨を読むって、どういう意味ですか」
 「鯨の数を数えるということだよ」
 「すると、鯨を読むというのは、鯨を数える」

「ことですか？」
 「そのとおり」
 「タイを読むとかヒラメを読むじゃいけないんですか？」

「いけない。鯨はゆっくり数えていられないから」
 「なぜですか？」
 「そう簡単に腐らないタイやヒラメは急いで数えなくてもいいが、腐りやすい鯨は悠長に数えていたら腐ってしまうからだよ」
 「すると、急いで数を数えることを、『鯨を読む』というんですね？」
 「急いで数を数えるって、どういうことになる？」
 「まちがいがいいです」
 「そのとおり、いたみやすい鯨を数えるときはまちがいがいい」
 「すると、まちがいがいいことを『鯨を読む』と言っんですね？」
 「本当にまちがえたのを鯨を読むとはいわない」
 「すると、ウソにまちがえたのをいうんですか？」
 「そのとおり、自分の都合のいいように、数をこまかして数えることを鯨を読むというんだ」
 「何泣いてるんですか？お父さん」
 「ママと結婚してから、年上だとわかったんだよ」
 「鯨を読まれたんですね」
 「そのとおり」



おかしな笑の仏



といきい 一息入れる

大福食いはから
一息入れる
うせの娘



ここだけの話。私の娘は三十路を越した。振り返ってみると「一息入れる」のが子ども頃から好きなコだった。

煎餅を食べながら、TVのお笑い番組をアハアハ笑いながら観ていたので、私が「明日テストがあるんだらう」と言うと「うん、バリ」

「勉強しなくていいのか」
 「一息入れるとこ、バリ」
 で、風呂から上がると、コタツでグーグー気持ちよさそうに寝ていた。

高校生の夏休みのこと。宿題の自前（じまえ）の浴衣を着て花火大会をすることになった。

型紙を作り、汗をかいて必死で裁ち缺で紺の生地を裁断している娘の姿を横目に（やれば出来るじゃないか）と、風呂から上がると、妻が汗だくで浴衣づくりに挑戦していた。

「どうしたんだ？あのコは」
 「一息入れたまま」

学校を出て勤めだした頃は、しゃかりきになつて結婚相手を捜していたようだったが、望みが高いのか、相手が相手にしてくれないのか二十代半ばになった頃、

「おまえ婚カツ（結婚活動）はどうしたんだ？」と訊いたら、
 「なかなか思うようになくて、イマイチなのよ、どれも。この辺で一息入れるわ」と大福餅を頬張つて明るく笑つた。

それから五年――。いまだに一息入れているようだ。

